

## 2014年度 第2回 番組審議会 議事録

### I. 開催概要

2014年9月10日(水) 15:30～16:30 キッズステーション本社会議室

### II. 出席者

#### 1. 審議委員 : 7名

宮下友美恵(学校法人静岡豊田学園 静岡豊田幼稚園 園長)  
斎藤汎司(コンテンツビジネス、契約アドバイザー)  
副島恒次(演出家・スーパーバイザー:バウ・スプリット株式会社インストラクター)  
田口成光(脚本家・放送作家)  
菅谷 実(慶應義塾大学教授 政策・メディア研究科委員)  
北風祐子(株式会社電通 電通総研 ママラボ所長)  
高芝 利仁(高芝法律事務所 弁護士)

[順不同;敬称略]

#### 2. 事業者側 : 5名

[経営] 宮内康行(代表取締役社長CEO)、北折尚志(取締役COO)  
[編成] 坂本直紀(編成部長)  
[事務局] 飯野博之(経営企画室長兼広報室長)、沼生祐介(広報室員)

### III. 議事内容

#### 1. 社長挨拶 株式会社キッズステーション 代表取締役社長CEO 宮内康行

今回ご審議頂く「花咲くいろは」は、子どもと親の同伴番組から少し離れたところの作品で、親御さんのもとより、お子様自身が大きくなってからもキッズステーションを見て頂ける為に有効な作品です。視聴者を繋いでいくということで、この分野も重要であり注力していきたいと考えています。よろしくお願い申し上げます。

#### 2. 番組審議 司会進行:宮下友美恵 委員長

##### 1) 対象番組:「劇場版 花咲くいろは HOME SWEET HOME」

##### ① 番組説明

- タイトル : 「劇場版 花咲くいろは HOME SWEET HOME」を事前配布
- 放送日時: 2014年6月21日(土)20:00～、6月23日(月)22:30分
- 主要対象: 大人、アニメファン
- 放送話数: 66分(HD)
- 作品紹介

##### <概要>

突然、祖母の経営する温泉旅館「喜翠荘」で住み込みで働くこととなった東京生まれの女子高生、松前緒花。最初は戸惑ったものの、今では自分の変化にも気づき始めていた。そんなある日、喜翠荘に女将修行にやってきたライバル旅館の娘で同じクラスの和倉結名の面倒を、緒花が見ることに。そして物置を掃除していた緒花はあるものを発見し…。

②合評：委：番組審議委員／局：キッズステーション

局：本作品はTVシリーズとして2011年4月から2クールにわたり26話放送された深夜アニメのひとつ。TVシリーズにも出資していたが、想像を越える好評を頂き、劇場版への出資及び制作に至った。劇場版公開の館数が少なかつたにも関わらず、興行収入も想像以上の出来であり、DVD等パッケージの販売も良かった作品。TVシリーズの後日談として描ききれなかつた部分を含め映画化したが、放送を待ち望む声も多く、この6月に放送し、視聴率も良かった。放送を通じていろいろと勉強をさせて頂いた作品。ご審議よろしくお願ひ致します。

委：視聴者を繋いでいくという意味ではこのような作品はもっとあってもいいのではと思う。今回は旅館という限定された空間での話だが、中学生、高校生の日常とか、日頃考えていること等を一緒に考えたり、感じたりする作品はもっとあるべき。位置づけとして大変よろしいのではと思う。

委：以前、TVシリーズを審議した記憶があるが、当時から自分はこの作品大絶賛で、文学の香りがあり素晴らしいと思う。最後までTVシリーズを見て、ファンともなった。

TVシリーズとの編成連動はしなかつたのか？

局：AT-XさんにTVシリーズを編成頂き、キッズステーションでは劇場版を同時期に連動企画として編成した。番組ガイド誌等では面積広く訴求ができた。

委：映画単独で見ると、尺が短い為、詰め込み感があると思う。

また、輝きたいと言った主人公が母親と喧嘩をして家を飛び出したわけであるが、では母はどうだったのか、母も同様に苦しかつたのではと考えると描き方が弱かつたかと感じる。

連続性のあるTVシリーズとは異なるので仕方がないかとは思ふが。

従い、TVシリーズを最初に放送してから最後に劇場版を放送してもらいたかつた。

局：今後そのような編成を考えていきたい。

委：TVシリーズは見えていなかつたが映画は感動的でした。回想シーンがあり、追っかけながら見えていたが、回想シーンと現在の区別で迷うところがあり分かりづらかつたところもある。

ところで、本作品は子ども向けではなく、大人の視聴者も狙いたいとのことであるが、一般の人から見るとキッズステーションというと子ども向けと思われるので、もしこのようなシリーズをやるのであれば、同じチャンネル内別枠としてロゴなどがあるとアピールしやすく、望んでいた視聴者にもわかりやすくなるのでは？最初のTVシリーズの放送は深夜枠ですか？

局：TVシリーズは「エリア23」(ゾーン名称)という深夜枠があり、そこで放送した。審査基準、編成基準に合致した作品をセレクトし放送している。深夜アニメは、確かにキッズステーションというブランドイメージとの距離感はあるが、良作は多いのでゾーン名称を設定し、大人の方にもご覧いただける場所がありますというようにした。

委：もっと表に出す方がわかりやすいかなと思う。

委:深夜枠の告知はどのようにしていますか?

局:放送内、自社ホームページ、ちらし等で告知しているが、もう少し必要なとも思う。

但し、お客様に対してはイメージもあり、アンパンマン、ポケットモンスター、ハッピー!クラッピー等の告知が名称ともあいまって入りやすいものとなるが、深夜アニメもやっており、それがささるお客様もいるので場所を使い分けたプロモーションが大事かと思う。

委:視聴層拡大へのチャレンジとして固定ファンがいる番組の合間は、別の番組ラインナップ紹介のチャンスだと思う。

委:告知の使い分けはどのようにおこなっているのか?

局:アニメの専門誌や専門サイトがあり、また、ガイド誌等でも声優さんのインタビュー交えて告知を行っている。

委:番組の宣伝はやっているようだが、ステーションのイメージ宣伝は?

局:ロゴと同時に打ち出す積極的タグライン的なものは現在設定していない。

委:ケーブルテレビで見ていると、アニメが並ぶ中で、ここはどのような局かがわかるものがあるという。

局:こども・アニメ専門チャンネルというのは併記して使用している。

委:深夜は大人向けがあるのだから、それをも内包するものがあったらいいのでは?

抽象的でひとくりにでき、他社と違うことをわかればいいのでは?

委:子どものときだけではなく、子どもの成長とともに傍らにいつでもキッズステーションはあるというのが素敵だなと思う。

委:キッズステーションでは、母から子へ、というように大切なものをメッセージとして届けていければいいのではないか。

局:社内でも長らく議論し、葛藤している。

委:ゆりかごから墓場までと言ったらオーバーかもしれないが、生涯見れるというのもヒントにならないか。

委:いつまでも持ってほしい子どもの心を大事にというのは?

局:「もっとここから!キッズマインド」というものを設定した時期はある。今は外しているが。

委:シナリオの基本精神として、主人公は周りを変えるか、自分自身がかかわらないといけないとあるが、今回は主人公自身が変わっていく(輝く)と認識している。それを表現するには母親との関わりの描き方が弱いように思い物足りなさを感じる。あとは回想なのか説明なのかどうかのかわかりづらい。作り方としては主人公の目から感じ取った作り方ではないもどかしさがあると思った。

委:TVシリーズではどうだったのか?

局:26話あるのでちりばめてつくることができたが、映画ではじめてご覧になる方もいるとは思いますが、すべてにうまく対応することは難しかったと思う。欧米の映画などでは更に長尺のものも増えている中で現場では相当な苦労があったことも理解している。

委:表現上、商標などにも十分ケアされているようであるが。

局:その通り。

委:温泉街を舞台にしているが町おこし的にやっているのか？

局:その通り。制作頂いている会社が富山にあるので、町おこし、地元の協力にてピーアールしている面はある。

委:母親であり、女性としての母親は一体どのような恋愛をしたのだろうかという部分には答えていないので、そこの表現が厚めにあれば主人公が母親を理解できたのではと思う。

委:丁寧制作されているとの率直な印象はある。回想シーンと現実についていけない部分がある。

局:わかりにくい演出を選択された部分はあると思う。余韻を残していると思う。

委:若い人には共感できるシーンとか台詞は多いように思う。

局:現在進行形のシーンが実は母親が行っていたこととシンクロしていることなどが思い出のシーンとしてではなく、さも繋がっているように表現されているところが面白いと思う。

委:映倫マークがあるが、制限はあるのか？

局:制限はなく、どなたでもご覧いただける作品。

委:母と娘の関係を描いたものはあまりないので、良かったのではと思う。

TVシリーズを知らなくても分かりました。お互いが理解できない感じなど共感が持てた。

テーマ設定が素晴らしいと思う。続きを見たいとも思う。

### **3.報告事項**

次回の番組審議会は、11/17(月) 15:30からですので、お間違いのないようお願いいたします。

以 上